

令和5年度 第4回 蜷塚中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年2月9日（金）13時30分から15時まで
- 2 開催場所 蜷塚中学校 会議室
- 3 出席議員 久野 隆久、山田 谷一、川上 玲子、田村 智代、
袴田 智恵美、橋本 憲幸、重信 明利、矢野 貴恵
- 4 欠席委員 佐々木 知成、安藤 好恵
- 5 オブザーバー 石田 博基（西部協働センター）
- 6 学 校 鈴木 公一（校長）、榊原 晋（教頭）、柏木 直人（CS担当）、
小谷 留美（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子
- 8 傍聴者 1人
- 9 会議録作成者 CSディレクター 小谷 留美
- 10 議長の選出
山田委員が、本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。
- 11 協議事項 熟議
 - （1）学校評価を受けての学校関係者評価（いじめ防止対策を含む）
 - （2）来年度の学校運営基本方針の説明
- 12 会議記録
司会の柏木から、委員総数10人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。
 - （1）学校評価を受けての学校関係者評価（いじめ防止対策を含む）

議長の指示により、教務主任から別紙資料に基づき学校評価の説明があり、委員からは、以下の発言があった。

 - ・生徒と保護者では満足度が乖離している。学校が情報を発信していかないと、教育の取り組みをくみ取れない。（柏木教務主任）
 - ・学校だよりの学校教育評価がとても見やすかった。しつつけを学校に求め、カバーする範囲が広がってきている。保護者からの要求はどこまで受け入れるのか。先生のストレスが心配。（山田委員）
 - ・1年生は期待が大きいのか、いつも評価が厳しいが今年は全体的に高評価が多い。保護者は意見をストレートに伝えてくることが多いが、伝えてもらわないと分からないことがあり良いことだと思う。3年生の面接の受け方講座では、先生を尊敬する、授業のおもしろいところなどの発言があり、先生と良い関係を築けていると感じた。一つひとつには対応できないと思うが、もらった意見に、学校はどうしているのか。（袴田委員）
 - ・保護者の意見は捉え方が変わってきている。さくら連絡網が出来て便利にはなった

が、要望を言い出したら止まらない。学校と保護者の連絡は、どのあたりの頻度がちょうど良いのか。(矢野委員)

・親は学校にサービス業として要望をする。いじめ対策は生徒の間で解決できるピアサポート研修が必要。(重信委員)

・保護者から学校の整備についての意見があったが、自分たちで使う学ぶ場を、自分たちで整備することも活動だと思いが難しいことなのか。(田村委員)

・先生のストレスは、教育委員会などへ相談する前の段階で、話す、聞いてもらう場があると乗り越えられる。自分たちが使う場所は自分たちで整備する指導をしていくことが大切。保護者は情報を欲しがらずに見守り待つ心構えや、家族でコミュニケーションを取ることが大切。(川上委員)

・行政が保育幼児教育を保育サービスと言葉を使うようになった。サービスに慣れた幼稚園の保護者が、10年後には中学生の親になり対応はもっと大変になる。学校は聞く耳を持ちながら、ブレずに流されないことが教育には大切だと思う。学校のSNSは毎日発信するサービスではない。(橋本委員)

・保護者の意見が以前と変わってきたと思う。起きている事実を明らかにするのは大事だが、生活が多様化し、自分の子供だけが良ければいいという考え方を認めていくのではなく、学校がどのように対応するのか。将来どんな人になり、どう世界を作っていくためにどうするのが大事。(久野委員)

・いじめ防止対策の改善策としては今やっていることを積み重ね継続していくこと。さくら連絡網の活用は、緊急で使うものであり情報を出しすぎると読まれなくなる。(榊原教頭)

・いじめ防止対策の取り組みは、生徒指導委員会を毎週行い、協議や対応をしている。受けた側がいじめと感じたら対応し、いじめと認定したらスクールカウンセラーやソーシャルワーカーと連携し、加害者と被害者の両方がスクールカウンセリングを受ける。保護者からの電話対応は管理職か担任が対応しているが、以前に比べ時間が多くかかっている。意見は受け止めながら教育機関の姿勢を説明している。アンケートは誰かわからないため、教育課程や教員と面談を行い改善指導している。コロナ禍のストレスが大きかった。話しやすい関係づくりをしてコミュニケーションをとる。(鈴木校長)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(2) 来年度の学校運営基本方針について

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき来年度の学校運営基本方針について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

・令和6年度グランドデザイン(案)教育活動取組のキーワードは敬意、寛容、熟慮、勇気の4つ。(鈴木校長)

・校長先生の思いが入っていてよいと思う。(石田オブザーバー)

- ・校長先生の説明が皆に伝わったらうれしい。(川上委員)
 - ・成長期には忍耐が必要。そこから逃げてしまったら成長しない。世間では、大事なことを発言しなかったり、遠慮したりするが、傷つき壊されても平気なんだというたくましが自信になる。子供たちは、そういう勇気を大事にして欲しい。(久野委員)
 - ・「やせ我慢」とは、子供の視点からみてよくわかる。周りを受け入れる寛容さで、自分は少し苦しいけれどがんばること。(矢野委員)
 - ・グラウンドデザインは、保護者が自分の立ち位置がわかると思った。4つの言葉はインパクトがあってよい。(袴田委員)
- 協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

13 報 告

- (1) 学校運営協議会の自己評価
- (2) 夢育やらまいかCS加算分の報告
- (3) 2年職場体験学習について(矢野学校支援CDより)
 - ・12/5(火)・12/6(水)に27事業所で実施。新規受け入れの事業所の確保ができた。
- (4) キャリア教育に関する事案
 - ・「アトリエ蛭塚」の運用
 - ・「面接の受け方講座」1月23日の実施状況

その他連絡事項

- (1) 次年度学校運営協議会委員について
- (2) 司会から、次回会議は、令和6年5月17日(金)蛭塚中学校会議室で開催する旨の報告があった。
- (3) 次回議長は橋本委員が務める。